

Ⅲ 底魚漁場座談会

共 催 海外トロール協会
水産海洋研究会
海洋地質研究会

日 時 昭和40年9月3日 午後1時～5時

場 所 全国町村会館別館

コンピーナー 宇 田 道 隆 (東京水産大学)

話題および話題提供者

大西洋トロールの現状と将来の問題点

岡 田 立 三 郎 (水産庁調整2課)

トロール漁業と海底の研究

新 野 弘 (東京水産大学)

西アフリカ底魚漁場と海況

宇 田 道 隆 (東京水産大学)

西アフリカ漁場経験談

和 田 光 太 (日魯漁業)

福 井 徹 (日本水産)

中村正路海トロ常務開会挨拶につづいて、海トロール協会真田健三会長挨拶に引続き、水産海洋研究会宇田、海洋地質研究会新野両会長の挨拶が行なわれ、大要のような話題提供と質問応答があつた。

1 大西洋トロール限状と将来の問題点

岡 田 立 三 郎 (水産庁調整2課)

アフリカトロール漁業では、サワラ沖漁場に日本船30隻ぐらい稼働しており、ソ連船(大型の2,000～4,000トン級)40隻ほども稼働と聞いている。イタリア、ギリシア船なども入る入会漁場で、スペイン船(小型1艘曳きおよび2艘曳き200隻もまじえ、北緯20°～26°の大陸棚で、モンゴイカ、タコ、タイ類(サクラダイなど)の好漁場である。資源はどうか、今後どう推移するかが問題で、水産庁来年度予算で調査船を出したい。モンゴイカは大たい1年生で余り心配ないともいうが、値のよい大形が集中的にねらわれ、中小形は主な対象にならないがこのイカは日本内地、東シナ海にも棲息し、生態的に相当浅い所で卵を産み育つといわれ、産卵群をトロール船で乱獲しないように留意しないと将来に資源の減少が考えられる。次にマダイの類は産卵は日本漁船の曳けない岸近くの浅所といわれ、1年生れと推察される。

サクラダイ、マダイを表示してみると、統計上で小形化し、量そのものも大ぶん減つておるの